

# MUSEUM

# EYES

2005Autumn

ミュージアム・アイズ

Vol.

42

Mm  
MEIJI UNIVERSITY  
MUSEUM

特集

明治大学博物館・延岡市教育委員会主催

特別展

江戸時代の大名

日向国延岡藩内藤家文書の世界

伝内藤義概所用 紫糸威二枚胴具足<sup>おとし</sup>  
江戸時代中期以降の泰平の世になると、武門の  
名譽の象徴でもある具足は、機能性・実用性以上  
に着用者の武威と気品を誇示するようにつくりが  
求められることとなり、いわゆる復古調と呼ばれる前  
代にみられた加飾の富んだ美術品ともいべき精  
緻な装飾で埋めつくされた具足が主流となっている。

◎ 神崎彰利氏 (元明治大学博物館事務長・  
明治大学刑事博物館学芸員)  
インタビュー

- ◎ 収蔵室から
- ◎ M2カタログ
- ◎ 来た・見た・聞いた明治大学博物館
- ◎ 博物館友の会から  
友の会分科会②・平成内藤家文書研究会

2005年  
10/15(土)  
12/11(日)

※初日は午後1時開場

明治大学博物館

# 特別展

日向国延岡藩内藤家文書の世界

# 江戸時代の大名展

までの道のり

## ❖ 内藤家文書学術調査のはじまり

故内藤政道氏が東京大学史料編纂所の伊木寿一氏に整理を依頼、白井信義氏らが作業にあたる。渋谷の内藤邸が奇跡的に戦災を逃れる一方、地元延岡市も空襲を受けており、この時の東京移送がなければ4万5千点の文書群は灰燼に帰していたかもしれない。

1941

1963

## ❖ 明治大学への内藤家文書の受け入れ

整理作業なかばで内藤家文書は明治大学へ移譲された。文書群の整理は、明大OBの白井氏から、文学部史学地理学科木村礎教授とそのゼミ生・ゼミOBに受け継がれた。

## ❖ 『譜代藩の研究』(八木書店)上梓

木村礎教授らによる共同研究の成果が論文集となって公表された。

1972

和泉図書館に架蔵されていた内藤家文書は、駿河台校地小川町校舎にあった刑事博物館に移設され、学内一般へ閲覧公開されることとなった。



## 延岡市内藤記念館

1993

延岡城旧西の丸にある内藤記念館が展示施設としてリニューアル・オープン。内藤家家伝の大名道具資料の公開が始まる。

1995

内藤記念館において明治大学所蔵内藤家文書お里帰り展「江戸時代の延岡」が開催された。(11月18日~12月10日)



2000

## ❖ 教育普及事業「明治大学所蔵『内藤家文書』の世界」開始

“カルチャープラザのべおか”や延岡市内の小中学校で内藤家文書をテーマとする講演会・出前授業が始まる(～現在)。

## ❖ 公開講座

「明治大学所蔵『内藤家文書』の世界」  
全5講 駿河台校舎にて開催

2002

## ❖ 明治大学博物館建設準備の本格化 2002~2003

新博物館の建設準備過程において、2005年度に向けて内藤家文書と延岡市内藤記念館所蔵資料による特別展覧会を準備することが決定。



# 2005 10月15日(土) 開幕!

Let's go to the exhibition room

ここに  
注目

## 特別展 江戸時代の大名

### おすすめのポイント



## 「Ⅰ 将軍と大名・大名と家臣」

くぜん  
口宣案 天正17年3月15日

明治大学博物館蔵

武家の官位の実質的な決定権は幕府にあり、朝廷が叙任文書を発給する事で叙任手続きがおこなわれました。

※写真は安土桃山時代のもの



## 「Ⅲ 内藤家の領国」

延岡御城附之絵図

明治大学博物館蔵

大きく三ヶ所に分かれた延岡藩領の内、延岡城を中心としてまとまる日向国臼杵郡内(3万5千石余)を描いた絵図。



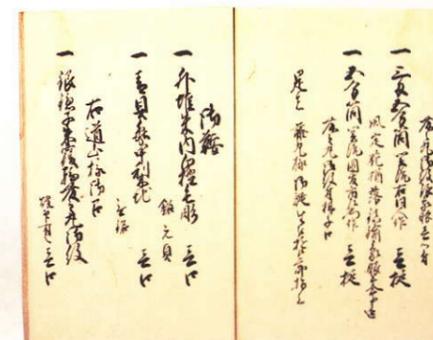
## 「Ⅱ 武功の家」

伝内藤政長所用 紅糸威胴丸具足  
延岡市内藤記念館蔵

江戸時代初期の具足の特徴をよくあらわしており、無用な装飾はありませんが、防御効果とともに動きやすさも意識した実戦的なつくりとなっています。

## 「Ⅳ 大名の武威」

→表紙参照



## 「Ⅴ 大名の文芸」

能面「大癒見」

延岡市内藤記念館蔵

尊大さ・力強さを感じさせる面で、鬼神や天狗の役などに使用されます。面裏に焼印「天下一大和」とあります。大宮真盛作、江戸時代初~中期。



## 「Ⅵ 内藤家のアーカイブズ」

御召御武具帳

明治大学博物館蔵

代々の藩主が使用した武具の管理台帳。現物確認の合い印や朱書きがなされているものもあり、継続的に武具の管理が行われていた事が分かります。

「江戸時代の大名」展開催にあたって  
**神崎彰利氏**にきく



内藤忠興書簡

明治大学が内藤家文書を受け入れて(1963年)以来、その整理作業に参加するとともに、刑事博物館学芸員として、それに最も近い位置にあって、研究に勤しみその普及に努められた神崎彰利さんうかがいました。

**神崎 彰利** かんざき・あきとし  
 1930年、神奈川県厚木市生まれ。明治大学大学院修了。村落史をはじめ、藩政、旗本領、検地など、近世史の諸問題を幅広く手がける。神奈川県を中心とする市町村史編纂をはじめ、地域の歴史解明に尽力した。元明治大学刑事博物館学芸員、元博物館事務長、元文学部講師、前相模原市博物館長。現在、相模原市史編纂室特別顧問。

# Interview

## 特別展「江戸時代の大名」展開催について

— まずは、内藤家をテーマとする特別展の開催についてご感想をお聞かせください  
 内藤家文書を、実際にイロハのイから整理した立場からすると、こうした展示会が開かれることを、本当に嬉しく思います。同時に、早くからこういう事をやりたいと思っていました。最初は、内藤家文書を延岡に持っていきましたね。あの時のことです\*1。講演会やった時、満席以上でね。地元と内藤家との密接な関係を物語っているんだなと感じました。また、前に小規模な「将軍と大名」展\*2やりましたね。それがあの時代だからちっぽけだったけど、ここまで発展したという、その意義は大きいし、博物館の発展過程に応じたテーマ、展示、講演会、ここまで展開したのかなど。それを考えると、よく言う言葉ですが、感慨にふけるというような、そんな感じがありますね。  
 ※1) 1995年「江戸時代の延岡」展 ※2) 1992年度刑事博物館企画展

## 内藤家文書の整理作業について

— 内藤家文書を受け入れて整理を始めた当時、印象に残ったことを教えてください  
 大名文書の一括されたものはそれまで見たことが無かった。それまでには資料館や博物館の書庫の中で架蔵されたもので、全体を一望したのではなく、いわば点の集合という状況でした。それが、大名の文書とはこんなに多いものか、何年かかたら整理できるのだろうか、我々の人数でこれだけ整理するのは大変だなということだった。だけど、与えられたこの機会を生かさなきゃだめだという感じは受けましたね。しかし、それを整理し、学術的にその目録を作る難しさを痛感したのですが、できれば、3形態に分類されていたものを、ゼロから整理したかったですね。皆、何が何だかわかんなくて、わーわー言って全体を積んで呆然と立ちすくんでた。

## ご自身の内藤家文書研究について

— 内藤家文書のどのようなところに一番注目されたのですか？  
 一番は量的な問題。この中から何が出来るんだろう。色んな問題が出て来るだろう。諸事書留とか、覚え類、冊子類がうんとありますね。何十年かけて、誰が読み切るんだろうか、そういう研究の難しさを感じました。自分なりに許された時間で、整理する、研究するとなると焦点を絞るべきやいけない。近世前期で、特に磐城在藩時代。1冊の帳面でもいいから読み通せないかなと思いましたね。整理の過程ではできなかったけど、休み時間を利用して何かやろう、例えば、近世前期の案詞なんかね。一番問題なのは、忠興書簡ですね。誰も読んでいない。それだったらそれを全部読んで、自分で原稿でとっておきたいと思いました。

## これからの内藤家文書研究について

— 今後どのように内藤家文書を活用したらよいか、どういった可能性があるでしょうか？  
 総合的な研究をもう一回、一つの大きなグループが総合研究をやっていたらいいということですね。その過程で筆写した史料を博物館へ収めていただいて、後の人に見られるようにしてほしいですね。史料集の刊行、目録の再編成、編年体の目録。これが出るとどのくらい便利か。目録を見て、何が出来るか、茫洋としたものよりも、シャープなテーマを取り上げることでしょうね。それから、各史料の個別研究ですね。例えば、忠興文書や案詞はそれ自体、藩政文書のあり方を示しているわけですから、古文書学的な分析と、その中の歴史的事実の抽出など。それから、覚え帳を見る時など、大きな事件を大名としてどう対応しているか、それが一つの切り口にもなるかと思います。内藤家文書じゃないと出来ない研究じゃないかな。

— ありがとうございます。

## 多くの資料が寄贈されました

4月から7月にかけて、何人かの篤志の方から、多くの資料寄贈を受けました。その内容は、高札、手錠コレクション、金細工、輪島塗、飛騨春慶塗、その他です。  
 高札は春日大社の神領における年貢収納に関する規定を記したもので、本館の高札コレクションに、また1点、貴重な資料が加わりました。手錠コレクションはアメリカをはじめとする世界各地のものが揃っています。金細工には、鷹や鶏、竹、扇子などを造形したもの、茶釜や湯沸かしなどがあります。“白鷹”と“尾長鶏”は金工作家



## 文学部史学地理学科 門前ゼミ古文書学習実施



8月2日～4日の3日間、文学部史学地理学科門前博之(日本近世史)ゼミの皆さんが博物館所蔵の相模国足柄上郡千津島村(現神奈川県南足柄市)文書を用いて古文書解読作業をおこないました。同村は酒匂川の中流域に立地し、寛文5年(1665)の宗門人別改帳でも知られます。参加したのは3年生5名と大学院生1名。中には、卒業論文のテーマとして、

今後、同文書群に取り組みたいというゼミ員もいます。全国にわたる膨大な数の地方文書もまた、博物館の特徴的な所蔵資料となっています。当館では、これらの学術資料を利用した、教育・研究のサポートを推進してゆきます。

## 内藤家文書 近代史料調査の活動報告



当館所蔵の「内藤家文書」は昭和40年(1965)に目録が刊行され、以後学内外の多くの学生・研究者に活用されてきました。その後も調査が続けられ追加目録などが刊行されて来ましたが、本年5月から内藤家文書のうち近代史料を対象とした調査が開始されました。本学の史学地理学科日本史学専攻落合弘樹助教指導のもと、学生・院生が中心となっ

て調査を行っています。8月には集中調査も行われ、現在参加メンバーはのべ18名になりました。

明治大学記念館前遺跡出土遺物

# 下馬太

GETA



下駄は江戸の町人文化のもので花開いたといわれています。日本における履物の着用がどこまで遡るかは不明ですが、縄文時代・中期の遺跡から杵形土器が出土していることから(寒冷地用の特殊なものである可能性もありますが)、植物性の編物や動物の皮革を利用して履物があつたことが推測されます。また、古墳時代の遺跡からは石製模造品の下駄の出土例もあつています。さらには副葬品の飾履(しよくり)や埴輪の靴表現にもみられるようになります。下駄は江戸中期まで雨天時や湿地用の履物でした。下駄は江戸の地面の状態が晴雨で変化するような土地では、気象や場所に応じた複数の履物を使い分けることも必要だったでしょう。しかし、次第に晴雨を問わず使用さ

今回は、当館の導入展示ともなっている明治大学記念館前遺跡出土遺物の中から漆塗りの下駄をご紹介します。

駿河台の地は、かつて徳川家康に仕えた駿河衆が屋敷を与えられ、將軍直参の旗本が住む街でした。そして記念館が所在していた付近は、幕末までの約二百年間、四干石の旗本である中坊(なかのぼう)氏の、二六九〇坪余りにわたる屋敷がありました。遺跡からは、建物跡やそれに付随する遺構群、および当時の生活用具が出土しており、中坊氏や隣接する五百石前後の旗本屋敷に関する良好な資料が得られました。写真の資料は、連函下駄と呼ばれるタイプで、一木から一枚の函を切り出し、前緒と横緒の三孔をあけた構造になっています。台・函部共に朱漆が施されており、大きさは、長さ二二・五センチ、幅四・四センチ、厚さ三センチと小振りです。残念ながら、鼻緒は残存していませんが、ピロード地や趣向を凝らした、かわいらしいものだったでしょう。

れるようになりまふ。その原因として住宅に普及したことがあげられます。屋外での裸足の歩行による畳の汚損が忌避されるようになるからです。それに伴って履物の着用の機会が増加しました。需要が増えた様子が窺える次のような資料があります。「江戸名所図会」の中の一枚、「神田下駄新町」という図です。建ち並ぶ下駄屋で大量に出荷をしている光景、一般の人が買いに来ている様子が描かれています。明治大学記念館前遺跡から程近い、神田鍛冶町の西の裏通り「下駄新道」と呼ばれていた通りの様子です。

さて、漆塗りの下駄の出現は十二世紀といわれていますが、江戸の町でも「中浜の塗木履(「毛吹草」)をはじめとして、上方下りの塗り下駄が流行するようになって普及してきます。江戸時代には度重なる節約令が出されました。奢侈に関する禁止令のうち寛延三年(七五〇)のものでは、「三枚重之草履」と「塗下駄」が禁止されています。しかし、この小さい下駄を眺めると、着飾ることを楽しむ心の豊かさや、制限された中で工夫し、生き生きと生活していた人々の姿が浮かんできそうです。

明治大学記念館前遺跡は、今回ご紹介した下駄の他に、こどもの遊び道具なども多数出土しており、旗本家の生活や、家の中での上での、貴重な情報を提供してくれます。ぜひご覧ください。

(佐藤絢子)

## メディア掲載一覧

### 資料写真掲載

- 資料掲載【東京府大海運橋兜町第一国立銀行五階造真図】 落合弘樹「西郷隆盛と土族」吉川弘文館
- 資料掲載【元禄磐城・棚倉・相馬領国絵図】▶写真 【元禄磐城・棚倉・相馬領国絵図 白川郡と八溝山】 【元禄磐城・棚倉・相馬領国絵図 山野利用の入会規定】 国絵図研究会「国絵図の世界」柏書房
- 資料掲載【伏見関門口豊後橋進撃之図】 舞台「風を結んで」パンフレット モーニングデスク
- 資料掲載【顔面付土器(栃木県出流原遺跡)】 「週刊 ビジュアル日本の歴史(増補版)」第83号 デアゴスティニ・ジャパン
- 資料掲載【素文壺形土器(福岡県板付遺跡)】 【顔面付土器(栃木県出流原遺跡)】 辻惟雄「日本美術の歴史」東京大学出版会
- 資料掲載【甲州法度之次第】 「週刊 ビジュアル日本の合戦」第14号 講談社
- 資料掲載【東京日本橋風景】 「ビジュアルワイド 明治時代館」小学館
- 資料掲載【神奈川県大丸遺跡出土 燃糸土土器】 【神奈川県夏島貝塚出土 燃糸土土器】 【千葉県原台遺跡出土 山形土器】 【群馬県岩宿遺跡出土 敲打器・石核・剥片】 【東京都茂呂遺跡出土 茂呂型ナイフ】 【神奈川県見野遺跡出土 ナイフ形石器・尖頭器】 【埼玉県砂川遺跡出土 ナイフ形石器・接合資料】 【新潟県荒屋遺跡出土 荒屋型彫器】 松浦有一郎「日本の先史文化—その源流と特質」雄山閣
- 資料掲載【8号小竪穴複写写真(茨城県殿内遺跡)】 【8号小竪穴出土第1例土器複写写真(茨城県殿内遺跡)】 【8号小竪穴出土第2例土器複写写真(茨城県殿内遺跡)】 「図説 稲敷・北相馬の歴史」郷土出版社
- 資料掲載【千葉県姥山貝塚M地点出土 加曾利B期小形土器】 【千葉県姥山貝塚M地点出土 堀ノ内2式土器】 【千葉県姥山貝塚M地点出土 B1期注口土器】 【千葉県姥山貝塚M地点出土 B2期土器】 堀越正行「縄文の社会構造をのぞく・姥山貝塚」新泉社
- 資料放映【御成敗目目】 フジテレビ「ネプリーグ」2005年8月8日
- 資料放映【徳川幕府刑事事図譜 入墨仕置の図】 【徳川幕府刑事事図譜 遠島出船の図】 テレビ東京「所さん&おすぎの偉大なるトホホ人物伝」2005年8月26日



### 館紹介等の取材・撮影・掲載 (新聞・雑誌・テレビ)

- ◇掲載【明治大学博物館・公開講座紹介】 「サライ」12号 小学館 2005年6月2日
- ◇放映【お茶の水小学校体験学習紹介】 テレビ東京「おはスタ」2005年6月10日
- ◇掲載【明治大学博物館紹介】 「散歩の達人」2005年8月号 交通新聞社 2005年7月21日
- ◇掲載【文学部 安藤政雄教授インタビュー・博物館資料(黒耀石)掲載】 「ドリームアイ」夏号 日本ドリーム 2005年7月10日
- ◇掲載【明治大学博物館紹介】 「BT増刊ART ANNUAL 2006」美術出版社 2005年12月(予定)
- ◇掲載【「江戸時代の大名」展紹介】 「タウン情報誌URBAN 東京南・山手版」8月号 アーバン企画 2005年8月25日

## M2カタログ

M2 goods

ミュージアムショップ「エムツー」で販売しているグッズを紹介するこのコーナー。第4弾はポストカードをご紹介します。

明治大学博物館で所蔵・展示している資料等をプリントしたポストカードは全部で53種類(1)。お土産に最適です。また、当館でしか手に入らないものなので、このポストカードで手紙を出せば、そのまま「来館証明書」にもなります。なお、5枚お買い上げいただいた方には1枚サービス致します。

★売上げベスト3(6月~8月)

1位	『明治大学博物館ガイドブック』	800円
2位	『明治大学記念館前遺跡』	500円
3位	『延岡藩主夫人 内藤充真院繁子道中日記』	1,000円



(価格 1枚90円)

## 団体見学の記録 2005年6月~2005年8月

- 【一般】 昭和37年法学部2組同期会(20名)・東京家政大学江戸学講座(30名)・首都圏高校教員説明会(270名)・昭和42年卒理科連本部同期会(8名)・埼玉県東部地区父母会(200名)・私学経営研究会(30名)・横浜歴史散歩の会(33名)・空の会(14名)・戸山みのり会(60名)・クラブツーリズム・考古学クラブ(13名)・明治大学父母会全国会長会議(40名)・世田谷白さき会立川地区(28名)・全国歴史教育研究協議会(12名)・国学院大学企画課(6名)・明治大学校友会船橋地域支部(20名)・千代田区教育会社会科部会(10名)・オレンジ&レモン東京支部(19名)
- 【小・中学校】 愛知県春日井市立柏原中学校(4名)・滋賀県彦根市立中央中学校(3名)・大田区立御園中学校(5名)・名古屋市立東陵中学校(6名)
- 【高等学校】 中央高等学院池袋校(34名)・文教学院大学女子高等学校(24名)・神奈川県立相模原総合高等学校(11名)・富山県立小杉高等学校(12名)・恵泉女学園(22名)
- 【大学・大学院】 明治大学商学部「商品学」受講生(150名)・都留文科大学考古学研究会(10名)・共立女子大学文芸学部文芸教養コース(16名)・明治大学大学院文学研究科「文化継承学」受講生(30名)・東京女子大学(35名)・日本文化大学(14名)

## 博物館 友の会から

# 友の会分科会② “平成内藤家文書研究会”

本会は、明治大学博物館が所蔵する、日向国(宮崎県)延岡藩内藤家の前の所領陸奥国(福島県)磐城平藩時代を通じての、有数な質量を誇る藩政史料の古文書の解読を、毎月第2月曜日にコラボレートしています。

当会員20名の内、男6名の平均は定年後ほぼ10年程のハイ年齢者で、多数派のご婦人も多くのベテランの方々で構成。各地域の地方文書等解読サークルに長年携わって来ている人、NHK学園の古文書講座を長年学習されて来ている方等が中心的存在になって、難解な古文書を輪読で解読しています。本会は、博物館

事務長法学博士伊能秀明先生を塾長に戴いて、古文書解読の生涯学習を志す向学の人ばかりで、博物館所定の原稿用紙に解読筆写をし、研究資料として明治大学に提供する奉仕活動を、6年余継続して来ました(1999年11月1日、前身の「資料を後世に伝える会」が誕生)。

この度開催の特別展「江戸時代の大名～日向国延岡藩内藤家文書の世界～」に際しては、メンバーの皆が日頃恩恵に浴する生涯教育活動に少しでも報いる気持ちと、内藤家文書への造詣を深める恰好の機会と覚え、折角の特別研修を受講するなどを経て、開催期間中の会場ご案内役に応じた次第です。もとより、4万5000点の膨大な蔵書量を誇る「内藤家文書」の僅かな部分を学んでいるに過ぎず、また、内藤家の宝物類を初めて実見する私達のことで、ご満足頂ける案内は出来ません。然し、明治大学の事業の一端に、生涯学習をサポートし、大学の研究に奉仕をする生涯学習活動であることが、高齢社会の世に明らかになる意義も小さくはないと考えます。

(平成内藤家文書研究会 粕谷宏幸)

### 【博物館友の会 連絡先】

〒101-8301 千代田区神田駿河台1-1  
 明治大学博物館 友の会宛

## 博物館案内

### 【開館情報】

**開館時間** 10:00～16:30(入館16:00まで)

**休館日** 夏期休業日(8/10～8/16)  
 冬季休業日(12/26～1/7)

※開館時間・休館日には変更の場合があります。

**観覧料** 常設展無料  
 特別展は有料の場合があります。

### 【図書室ご利用案内】

**開室時間** 月・金 10:00～18:30  
 (8、9、2、3月は10:00～16:30)  
 火～木 10:00～16:30  
 土 10:00～12:30

**閉室日** 日曜・祝日・大学が定める休日

※図書室はどなたでもご利用いただけます。  
 ※蔵書は原則閲覧・コピーのみとなりますのでご了承ください。



■交通機関  
 JR御茶ノ水駅(中央線)から徒歩5分  
 地下鉄御茶ノ水駅(丸の内線)から徒歩8分  
 地下鉄新御茶ノ水駅(千代田線)から徒歩8分  
 地下鉄神保町駅(都営新宿線・半蔵門線)から徒歩10分

